

指導資料



鹿児島県総合教育センター

国語 第118号

—小学校，特別支援学校対象—

平成22年10月発行

「読むこと」と関連させた読書指導の在り方

子どもたちは、読書を通じて、感性を磨き、読解力や想像力、思考力、表現力等を養うとともに、多くの知識を得たり、多様な文化を理解したりすることができる。また、書籍や新聞などの資料を読み深めることを通じて、自ら学ぶ楽しさや知る喜びを体得し、さらなる知的探究心や真理を求める態度が培われる。変化の激しいこれからの社会を生きる子どもたちに、生涯にわたる読書習慣を身に付けさせる意義は大きい。

今回、小学校学習指導要領国語科改訂の要点の一つに、読書活動の充実が挙げられた。目的に応じて本や文章などを選んで読んだり、それらを活用して自分の考えを記述したりすることを重視して改善が図られている。

また、「話すこと・聞くこと」、「書くこと」及び「読むこと」の各領域においては、子どもたちが基礎的・基本的な知識・技能を活用して課題を探究することのできる国語の能力を身に付けることができるよう言語活動例が示された。

そこで本稿では、小学校学習指導要領国語科「読むこと」領域の指導事項を、読書指導という視点からとらえてみたい。その上で、言語活動の充実を図りつつ「読むこと」と関

連させた読書指導の在り方について述べる。

1 「読むこと」に関する目標

小学校国語の「読むこと」領域の学年目標は次のようになっている。

【第1学年及び第2学年】

書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。



【第3学年及び第4学年】

目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。



【第5学年及び第6学年】

目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。

*アンダーラインは筆者

今回の改訂で、目標の前半部分（読む能力に関する目標）では、これまでの「読むことができるようにする」という文言が、「読む能力を身に付けさせる」と変更された。後半部分（読書態度に関する目標）については、これまでと同じである。つまり、「読むこと」に関する指導においては、発達の段階に応じて読む能力を確実に身に付けさせるとともに、その力が日常の読書活動へつながり、「楽しんで」「幅広く」「読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする」と発展・深化していく読書態度を

育てることが求められている。各学校では、子どもの読書に対する興味・関心の実態を的確に把握しながら、発達の段階や学年に応じた指導の重点化と具体化を図り、読む能力と読書態度のいずれをも伸ばしていく必要がある。

2 「読むこと」の指導の在り方

「読むこと」の指導の過程においては、これまで「話すこと・聞くこと」や「書くこと」との関連指導はなされてきている。今回の改訂では「読むこと」の領域の中に「自分の考えの形成及び交流に関する指導事項」が新設されており、活動領域間の関連性を一層重視することが大切である。それは、本や文章を読んで感じたことや考えたことを書いたり、話したりして交流するなどの言語活動を行うことで、国語の能力を総合的に身に付けさせていくことができるからである。読書指導においても4つの言語活動を意図的・計画的に取り入れることによって、子どもたちの読書体験をつなぎ、個人の読書体験を集団で交流させる読書活動へと発展させることが望まれる。そのような読書を核とした自己の考えの形成や交流活動をとおして、子どもたちは国語の能力を育て、読書習慣を確立していくことができるはずである。

3 「読むこと」と言語活動

国語科の各領域においては、内容の(2)に言語活動が具体的に例示され、これらの言語活動を通して(1)の指導事項を指導することが一層明確になった。例えば、中学

年の「C読むこと」の言語活動例について小学校学習指導要領解説国語編をもとに整理すると次のようになる。

中学年「読むこと」の言語活動例

ア	物語や詩を読み、感想を述べ合うこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 同じ主人公や作家、詩人のシリーズ、ファンタジーのシリーズなど物語集や詩集など ・ 感想を表す言葉を増やす。 ・ 叙述に基づいた感想 ・ 経験、考え、関心のあることなどと関連した説明 ・ 感想の比較、自分の感想についての認識
イ	記録や報告の文章、図鑑や事典などを読んで利用すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 記録文、報告文を読む。 ・ 図鑑、事典などの利用 (本の題名、種類などへの注目、索引を利用した検索などによる必要な本や資料の選択)
ウ	記録や報告の文章を読んでまとめたものを読み合うこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 知識や情報の選択、表現への着目、以前読んだ本や文章との比較、自分の知識や情報、現実と結び付け自分の考えを深める。
エ	紹介したい本を取り上げて説明すること。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 選んだ本の内容や構成全体の理解 ・ 文や語句の書き抜き、要約、引用 ・ 図や表の引用 ・ 効果的に紹介するための工夫
オ	必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 必要な情報を得るために、読んだ内容に関連した本や文章を読む。

これらの言語活動は例示である。読解単元や読書単元の授業では、学校や子どもの実態に応じて学習内容やねらいを明確にし、様々な言語活動を工夫しその充実を図っていくことになる。

中学年の(1)指導事項のカ「目的に応じていろいろな本や文章を選んで読むこと」を指導する場合、言語活動例のエ「紹介したい本を取り上げて説明すること」と関連させ、「幅広く読書」する態度を養うために、学校図書館の利用方法を学んだり友達同士で本を紹介し合ったりするなどの活動を組み込んでいく。その際、書き抜きしたり、要約したり、引用したりした部分を理由や根拠として示しながら、効果的な紹介ができる力を育てていくようにする。そう

した知識や技能を身に付けさせ、それを支える能力をはぐくむことで、読書への興味や関心、意欲を育てて読書習慣の形成につなげていくことができる。つまり、これか

らの読書指導では、知的活動（論理や思考）、コミュニケーションや感性・情緒の基盤となる国語の能力の育成に資する読書活動を推進することが大切である。

4 「読むこと」と関連させた読書単元の指導計画例

1	単元名 本の紹介・スピーチ (第3学年)
2	指導目標と言語活動例の関連
◎	目的に応じ、いろいろな本や文章を選んで読むことができる。(C読むこと 指導事項カ)
◎	相手や目的に応じ、理由や事例などを挙げながら筋道立てて、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すことができる。(A話すこと・聞くこと 指導事項イウエ)
■	紹介したい本を取り上げて説明する。(C読むこと 言語活動例エ)
■	図表や絵、写真などを取り上げて話す。(A話すこと・聞くこと 言語活動例ウ)

過程	主な学習活動	留意点・指導方法例
つかむ 見通す	1 ブックトークを聞く。学校図書館へ行き、本を見つけるために工夫されていることを探してノートに書く。書いたことを教え合い、学習課題「おすすめの本を見つけてしようかいしょう」を設定する。 ○ 学校図書館などの施設の利用方法を確認する。	○ 図書館担当者と事前に打ち合わせて、指導する内容の分担を明確にしておく。 ○ 教師のブックトークは、単元末の子どもたちの活動をイメージできるよう多様な方法を工夫する。 ○ 学習計画を立てる。
	単元終末の読書活動をイメージさせる。(学習過程の明確化、見通し) ※ 教師のブックトークを見て、本の紹介の仕方を知る。	
調べる	2 教科書の中心教材文を使って、紹介の仕方を学習する。 ○ 登場人物、場面設定、出来事などを整理し、あらすじをまとめる。 ○ 紹介する際に、必要な文や語句を書き抜いたり、要約、引用したりする。	○ あらすじをまとめさせる際に、教材文の特徴に目を向けさせ、他の作品と比べる視点を整理して示すようにする。 ・ 作品構造 ・ 表現の特徴、おもしろさ
	基礎的な知識(あらすじのまとめ方、要約、引用の仕方等)を確実に学ばせ、今後の読書生活に活用できるようにする。(読書に関する基礎的・基本的な知識・技能の習得)	
	3 読んでみたい本を探して読み、聞く人が読んでみたいと思うような本の紹介の仕方を考えて、発表する内容をまとめる。 (1) 教科書教材から上手な紹介のポイントを話し合う。 (2) 本を選んで読み、おもしろいところをまとめるアイデアを話し合い、発表内容をカードにまとめる。 ・ 相手意識(だれに伝えるのか) ・ 目的意識(何のために伝えるのか) ・ 方法意識(どんな言葉やどんな伝え方をするか)	○ 各自で学習を進められるような補助資料を準備する。 ・ 読書カード ・ 紹介文を書くための学習の手引き ・ ブックリスト ・ 感想語彙一覧表 ・ 読書紹介文(例) など ○ ブックリストは、中核教材文と関連したいくつかのテーマに絞り、作成しておく。
	書き抜き、要約、引用の仕方など、読解単元の学習の活用を図る。(読解単元で習得した知識・技能の活用)	
深め合う	4 自分の選んだ本を紹介し合い、感想を交流したり、薦められた中から読みたくなった本を発表し合ったりする。 ○ 紹介する本のよさが伝わるように、写真やさし絵を見せたり、要約や引用した部分を見せたり音読したりしながら効果的に紹介する。 ・ 場面・状況意識 ○ 友達の紹介を聞いて、感想を交流する。	○ ベア、グルニア、全体での紹介というように対象を広げるようにする。 ・ 感動した文や文章を引用して自分の感想につなげていくよう助言する。 ・ 自分の思いに合わせて、相手に呼びかける言葉や構成を考えるよう促す。 ・ 感想の交流を通して一人一人の感じ方の違いを認め合うよう助言する。
	交流し合う活動を設定し、個人のもつ本の情報や考え方を広げ深めるようにする。	
まとめる	○ 友達の読書紹介を聞いて興味をもった本を読んだり、読みたい本のリストや今後の読書計画を作ったりする。	・ 友達の発表から、自分の考えが深まったことなど、これからの読書に生かしていきたいことを発表させ、意欲を高める。
	交流活動を通して得たことを、今後の読書生活につなぐ手立てを工夫する。(読書習慣の確立、読書の日常化)	

3 ページに掲載したのは、「読むこと」と関連づけた読書単元の指導計画の例である。作成に当たっては、自ら学び、課題を解決していく能力の育成を目指す意味から、次のような点に留意している。

- 単元の冒頭に当該授業での学習の見通しをもたせる導入の工夫
- 読書材に関する基礎知識の確実な習得
- 交流する場の設定
- 自分の読書体験を生かす活動の工夫
- 当該授業で身に付けた読書にかかわる力を振り返る機会の設定の工夫

5 授業と家庭との連携を図る読書指導

授業で身に付けた読書にかかわる力を実生活で生かせるようにするには、家庭との連携は欠かせない。子どもの読書活動を促すために最も身近な存在は保護者である。保護者が読書の重要性を理解し、子どもの読書に関する情報を共有して、日常生活で適切な支援をしていくことによって、子どもの読書習慣は形成される。

学校と家庭の読書を発展的・継続的につなぎ、子どもの国語の能力の育成に資する取組として、「読書記録ノート」の作成・活用を提案したい。自分の読書体験をその都度記録に残すことで、授業や読書を通じた他者との交流、自己形成に生かしていきける。また、記録によって、これから先の読書生活の設計にもつながっていく。読書記録ノートには次のような内容をまとめることが望ましい。

① 必読・参考図書リスト

※ 当該学年で読んでほしい本や各教科等の学習に関連した図書リスト

② 読書記録をするための手引き

※ 読書記録の観点等を記したページ
【記録の観点 例】

- | | |
|----|--------------------------|
| 1 | 本を読んで何か聞きたいこと |
| 2 | 考えたこと、知ったこと |
| 3 | 心に強く残っていること、忘れられない言葉 |
| 4 | 本を読んでやってみたいこと、作ってみたいこと |
| 5 | 「もし、・・・だったら（でなかったら）」 |
| 6 | この本から空想したこと |
| 7 | この本を読んで読みたくなった本（内容、書いた人） |
| 8 | 友達にこの本を紹介する |
| 9 | この本を読んで思い出されたこと |
| 10 | 物語の続き |

③ 感想・意見・創作文等を記録するページ

※ 目的意識や相手意識をもって記録

※ 心に残った文や言葉、あらすじ、要約

④ 表現に生かす語彙集

※ 発達の段階に応じて作成

⑤ 定期的に読書を振り返る評価シート

読書記録は、子どもが自主的に楽しんで継続できることが理想である。本と対話することの楽しさ、読書の喜びが記されていくものになるよう、教師や保護者は子どもの読書力の成長を見守る姿勢をもつ必要がある。

読書は個人的な営みであるが、読書活動を人と人のつながりの中に位置付け直すことで、自ら考え、自ら行動し、主体的に社会の形成に参画していくために必要な知識や教養を身に付ける重要な契機となる。発達の段階を踏まえながら、国語の能力の育成に資する系統的で効果的な読書活動を組織し、情報化社会に即したあるべき読書生活を自ら創り出す力を子どもに育てていきたい。

【参考文献】

- 『小学校学習指導要領解説 国語編』平成20年6月 文部科学省
- 『これからの時代に求められる国語力について』平成16年2月 文化審議会答申
- 『子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画』平成20年3月
- 『横浜版学習指導要領』平成21年3月 横浜市教育委員会
- 『国語教育相談室』平成19年9月 光村図書
- 『大村はま国語教室の実際 上・下』平成17年 溪水社

(企画課)